

---

# 清んだ混沌：クリアカオス

ギゼンシャ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

清んだ混沌：クリアカオス

### 【Nコード】

N4611M

### 【作者名】

ギゼンシャ

### 【あらすじ】

偉大なる神々

神々は世界を創り、生き物を創り、魂を輪廻の輪にのせる  
しかし、光あるところに必ず影は射す

神がいるなら彼らもいるだろう

そう、【死神】だ

魂を刈る者、神でありながら神に背く者

そして、その死神に魂を刈り取られた少年がいた

少年の名は「

」

少年は神に力を貰い、新しい世界へと歩を進める  
彼は新しい世界で何をするのだろうか

この作品はオリ主、チート、原作改変の要素があります。苦手な方は前のページに戻ることをオススメします

## プロローグ(前書き)

小説初投稿です！

更新速度は遅いと思いますが、よろしくお願ひします！

## プロローグ

「やつほ」

「……………」

「あれ？聞こえてないの？」

「……………」

「オーイー！きーこーえー」聞こえてるわぼけえ！……………  
う」

ここはどこだ？

あたり一面真っ白じゃねえか

そして、胡散臭い杖を持ったじじいが一人

てか、オレ家に帰る途中じゃなかったっけか

ズキン！

「うつ……………なんだ……………これ」

「記憶の再現が始まったようじゃの」

「記憶の……………再現？てか、あんたは？」

「わし？わしは「があああ！！！」

ん？ここは？

「ふあゝあ、今日も一日お疲れ様だぜえ」

あれは・・・オレ？

学校指定のバックを持ってとあるシリーズの最新刊を持っている  
・・・間違いないオレだな

てか、なんでオレがオレを上から見ただ？  
って、宙に浮いてるのか・・・宙？

「しかし、とあるシリーズもついに20巻か・・・さすがだな」

このさい、宙に浮いてるのはおいとこ  
しかし、なぜだ？オレは死んだのか？

「こいつは帰ったらゆっくり読むか」

まで・・・この台詞どこかで聞いたような  
てか、あのトラックスピード出しすぎだろ・・・って！やべえ！

「おい！早く逃げろ！轢かれるぞ！」

「ふんふんふん」

ちっ！気づいてないのか！？  
助けるか！？・・・って動けねえ！？

「ん？さっきから周りがうるせえな・・・って！ト」「バン！」

な！あれじゃあ・・・たすからねえぞ！？

ズキン！

くっ・・・あた・・・ま・・・が・・・

ガバツ！

「はぁ・・・はぁ・・・はぁ・・・」

「起きたかの？」

起きた？俺は寝てたのか？

いや、たしか記憶の再現とか言ってたな、このじじい

「今のは？それにお前は？そしてここはどこだ？」

「ふむ、いつぺんに質問せんでくれ」

「わしの名はゼウス、ここは狭間と呼ばれておる」

「そして今のは、君の記憶だ」

「記憶？オレの？」

やっぱりそうか

でも、あんなこと・・・あつたな

そうか・・・オレは死んだのか

「そつ、君は死んだのじゃ」

「勝手に心読むなじじい（そうなんですか）」

「心の声がもれておるぞ」

しかし・・・ゼウスつつつたら神の一人だろ

しかも、最高神だ

この緩いじじいがゼウスな訳が・・・」あるのじゃよ」  
だから心読むなよ

「まあ、君に一つだけ聞きたいのだが・・・名は？」

「オレか？オレは・・・」

名前？オレの名前？

そんなの決まってる　　だ

・・・なんでだ？どうにも思い出せねえ

「ふむ、またやられたの」

「やられた？どーゆーことだ？」

「最近になってたまに現れるのじゃよ、名を覚えておらぬものが」  
「わし等は『名無き魂』とか『クリアソウル』とかと呼んでおるが」  
の

「普通は覚えてるもんなのか？」

「普通はの・・・しかし、名を覚えておらぬ者がいる」  
「名を覚えておらぬということは、輪廻の輪から外れてしまったと  
いうことじゃ」

「そして、魂を輪廻の輪からはずすのが『死神』じゃ」

「死神って・・・鎌持ってるアレ？」

「そう、鎌持ってるアレ」

なんですか？いきなりすぎるだろ  
しかもまじで鎌持ってんのな、死神

「まあ、死神はおいといて。輪廻から外れた？つーことは元の世界に転生は出来ないってことか？」

「察しが早くて助かるのお」

当たり前だ、生前は二次創作の小説とかを山ほど読んでたんだ  
こーゆーありきたりな展開には慣れっこだ  
・・・自分が体験するなんて露ほども思ってたがな

「で？なんだ？アニメとかの世界に転生させてくれるのか？」

「そのとおりじゃ、説明が楽で助かるぞい」

やはりな

てか、転生するとしたら何にすっかな

・・・リリなの

・・・とある

・・・バカテス

・・・etc, etc

ふむ、やはり「とある」かな

てか、転生ってことは・・・

「チートスキルつけるのもありってことか？」

「そっじゃの、ただしっつまでじゃが」

「分かった」

「なら、転生世界はとあるシリーズにしてくれ」

「スキルは……」

よし、少し遊んでみるか

オレTUEEEEE！なスキルをつけてみよう

「一つ目は『記録発現：ハードディスク』一度見たスキルを使うことが出来る」

「もちろん能力の複数使用可能で」

「あ、原石の状態で頼むな」

「ふむ、いきなりぶっとんでるのお」

ぶっ飛んでいて何が悪い

「これくらいじゃなきゃチートじゃねえだろ」

「二つ目は演算能力だな、ツリーダイヤグラムの10倍くらいで」

「いや、チートすぎるじゃろ」

「気にすんな……やりたいことがあるもんでな」

「三つ目は、『回線連結：コンタクト』他人の脳や機械などの回線を結ぶことができるっつー能力で頼む」

「む？最後だけ消極的じゃの」

じじいがこっちを見て（こいつなにすんだ？）みたいな顔で見えてきやがるな

「やりたいことがあるって言ったろ、これがねーと出来ねーと思うからな」

「原作にもこんな能力ないだろうし」

「ふむ・・・まあ了解じゃ、じゃあ飛ばすぞい」

え？まじで？早くない？

つてか、声でねえし！

「いやあ、時間切れが近いんだよね」

「そゆことで、またね〜」

つてー！おいー！くそじじいー！

またね〜、つてどーゆーことだ！

お・・・い・・・この・・・や・・・

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4611m/>

---

清んだ混沌：クリアカオス

2010年10月9日07時07分発行